

年 頭 に あ た っ て

藤 井 豊

明けましておめでとうございます。新春を迎え日本海区ブロックの皆さんに本年も変らぬご交誼を全所員とともにお願い申し上げます。

近年の科学技術に対する社会的な関心の高まり、将来へ向けての期待の増大は目を見張るほどの速さで広がっており、水産の分野におきましても、昨年は、ハイテク、バイテクの言葉を耳にしない日はないような状況で終始し、皆様方も対応にご苦勞の多い1年間であったことと存じます。

さて、わが国の水産業界にとっては本年も昨年と同様に、生産、需要の両面で依然として厳しい状態が続くものと予想され、このため当然のことながら、水産試験研究機関に対しても、本年は、漁業現場からの解決を要する切実な問題提起が一段と多くなり、また行政部局からの早急な対応を必要とする要請課題が一層増加することと思われまます。われわれ試験研究機関としては、このような要望、要請に答えてゆかねばならないのは勿論のことですが、同時にこれまで長年に亘って努力を積み重ねてきた、将来の水産業及び水産研究の発展の基盤となるような重要な調査や研究の継続を中断したり、欠かすことは決してできません。

このような状況下で、限られた人員と制約された予算で手に余る多くの問題に対処し、十分な成果を挙げてゆくためには、ブロック内の全試験研究機関がこれまで以

上に緊密な協力体制をとり、それぞれの機関の成果を相互に活用してゆくことが必要と思われまます。“1本ずつの矢は折れても東になった3本の矢は折れなかった”という毛利藩主の教えに倣い、私共も、日本海ブロックの皆さんと手に手をとって、将来の日本海漁業の安定と発展に向けて努力してゆく決心しておりますので、今後とも一層のご協力をお願い致します。

(ふじい ゆたか 日本海区水産研究所長)

鈴木 慶 照

漁業をめぐる内外の厳しい諸情勢のなかにあって、シベリヤ風の荒む日本海岸の辺地から、新年の御挨拶と感懐を述べさせていただきます。

日本は世界一の長寿国にまで成長した。医学の進歩、政情安定もあろうが、魚食が大きく貢献していることは世界の等しく認める所であり、日本を動かす実年階層の評価して欲しい所でもある。

また、経済水域 200 海里時代の行く末は如何、あてになるのは日本経済水域のみであろう。

しからばこの狭い日本経済水域を最大限に活用する、即ち単に効果的、省力的漁業のみならず、今後の栽培漁業、資源管理型漁業を造りあげて行く基礎を背うのは、試験研究機関であることは云うまでもない。

需要と供給、経済バランスで足りなければ輸入では一次産業は崩潰するし、将来への不安は尽きない。

資源なき日本を支えるのは頭脳であり、頭脳は即試験研究機関であろう。

行政府或は政治を掌る方々はどのように理解しているであろうか。具体的には国の予算対応を見ても計り知られるのである。

重要施策であれば、国防費の如く予算枠の位置づけが示されている。試験研究費も同様の位置づけが示されてもよいのではなからうか。

それを認識させるべき行政府の奮起を望んで止まないし、我々も努力しなければならぬのである。

一発想として、試験研究機関の重要性を位置づけし、長・中期計画を定め、国・県の機関の役割分担を示し、閣議了解或は法的裏付をする等確固たる指針を持つべきではなからうか。

民間活力の導入もよからうが、試験研究機関に確固たる活力を与えるべきであり、歴史的経験と知見、莫大なデータを活かし、今こそ投資効果を計って行くべきではないかと考えるのである。

今日も昼というのに、薄暗い漁村に吹雪きが舞う。一研究職の虎落笛と聞き流して欲しくないのである。

(すずき よしてる 青森県水産試験場長)

武尾 善蔵

新年明けましておめでとうございます。

昨年四月着任し、早いものですでに九ヶ月経過いたしました。当所では、ヒラメ、マダラ、ホッキガイ、アカガイ、サザエ、ナマコの種苗生産に取り組んでおりますが、毎日が所謂「エサ」の「エサ」づくりから涙ぐましい努力をいたしております。沿岸漁業振興のため、人為的な資源添加が強く求められている今日、是が非でも量産技術開発を一日でも早く確立させなければならないわけで、ささやかな挑戦を続けている次第です。

しかし、人為的な資源添加により漁業者に直接的な所得アップを反映させるまでには、かなりの期間と莫大な設備投資が不可欠であり誠に恥しい話ですが、今さらながらあらためて海の生産力の偉大さをつくづく感じております。

そこで、私の夢とでも云いましょうか、漁業生産の場

としての海をもっと知りたい。昔から云い占されてきたことですが、せめて我が国大陸棚周辺を自由に遊泳出来るような小型潜水艇が出来ればと思っております。漁場を何時でも見れるように、科学技術庁では、「しんかい2000」で我が国周辺海域の海底資源等の調査に乗り出しております。世界が二百海里経済水域設定以来、二百海里水域内の漁場開発は緊急課題であると叫ばれつけてきたのに、水産サイドで何故保有出来ないのでしょうか。

思いつきで恐縮ですが、例えば海洋開発センターに所管させ、各県の調査依頼に応じるような体制は組めないものでしょうか。勿論、所要経費は、当然各県も負担を覚悟せざるを得ないと思いますが、若し、これが実現されれば、我が国の水産業は、飛躍的に発展するであろうと確信いたしております。勝手なことを申し上げましたが、ご挨拶に替えさせていただきます。

(たけお ぜんぞう 青森県水産増殖センター所長)

松橋 重雄

明けましておめでとうございます。

秋田県水産振興センターも、昨年10月以来初の新年を迎え、所員共々希望と覚悟を新たにしているところであります。

昨年の本県水産業は、基幹である底曳網の不振、特産種とも言えるハタハタの低迷など明るい話題に乏しい年でありましたが、本センターにおきましては今年度計画をほぼ達成でき、ひとえに日水研始め各県水試等の御協力・御指導によるものと感謝いたします。

現在の漁業は資源管理型への体質改善が強く要求されているため、一層の努力が必要と思われれます。

本センターは御案内のとおり試験研究・栽培・研修普及の機能を統合した機関であります。今年からは従来の資源調査・種苗生産試験等に加えて、増養殖の際の雌雄のコントロール、倍数体の利用等バイオテクノロジーの分野にも取り組むことしております。

また本県ではハタハタの調査研究を最優先にしており、その一環として親魚の標識放流を今期も実施したので再捕報告について特段の御協力をお願いします。

いずれにしましても沿岸域における漁業資源について

は急を要する大きな課題が多く、私たちは現状を的確に把握すると共に迅速に対応し、漁業者のニーズに対応して行かなければならないと思います。

特に本県では県総合発展計画の後期実施計画がスタートする重要な年であり、今年の重点として、“地域産業の振興による経済の活性化”、“活力ある県土づくりを担う人づくりの推進”などがあげられております。本センターもその一翼を担う立場にあり、引き続き漁業の振興のための努力をしてみたいと存じますので、これまで以上の御指導・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

(まつはし しげお 秋田県水産振興センター所長)

西 長 秀 雄

明けましておめでとうございます。

南は山口県から、北は青森県まで、日本海側12府県千数百kmの長い海岸線は、対馬暖流に洗われつつ、新しい昭和61年を迎えました。今年こそ良い年になりますようにと、新たな希望と夢を託して、日本海の各地で水産の営みが続けられております。

われわれ水産試験研究機関にとっても、正念場の大事な年になりそうです。科学技術の進歩は、創造性ある人間の英知から生まれるものでありますから、画期的な方法論の発展、質的転換を伴う技術革新が生みだされることを、新春の正夢として、期待したいものです。

海の生産力には、人智を超えたものがあります。若い研究者の力が、これらの海の宝を掘り起こす原動力となりますように、年頭にあたって期待したいものです。

(にしなが ひでお 山形県水産試験場長)

土 屋 保

謹んで昭和61年新春のお慶びを申し上げます。

今年も何分よろしく申し上げます。

年の始めに今年こそは現状では定着しかねない様相のある水産業が低迷のトンネルから脱出したいものだと考えたところではあります。それは私共の仕事の成果如何によると

ころが大きいわけですが、幸なことに、今年私共では経常的なものを除いて、最近の漁業情勢からみて今後の水産調査研究の重要な位置を占める資源管理型漁業の調査研究が取りまとめに入るもの及び最後を締めくくるものがあります。一つは5府県共同で実施してまいりましたタチウオ資源の管理技術開発総合研究がつめの段階であります。さらに、初心者マークをつけて走り出した沿岸の底魚を対象とした沿岸域漁業管理適正化方式開発調査は3ヶ年計画の最終年度を迎えて取りまとめの年であります。これは種々な意味で研究者のみならず漁業者も関心の目で見守っておりますので、なんとか利用可能な成果を作り上げたいと鋭意努力をしております。

また、今年は県の農林水産業長期構想の見直し作業があり、これを受けて研究推進構想も見直しますが、水産業におけるハイテクノロジーを取り入れた来世期へつなげる展望が必要となります。職員一同が研さんに務めまがすが皆様方の御指導もお願いして、年頭のあいさつにかえさせていただきます。

(つちや たもつ 新潟県水産試験場長)

岡 田 稔

新年お目でございます。

貿易摩擦によって一段と増幅された感のある200カドルをめぐり背景です。沿岸域の低迷ぶりと併せ体質改善が急がれる本県の漁業情勢をつよく感じております。

斯うした背景の鮮明化は私共水産関係者ばかりでなく魚食民族日本人の全体の問題として理解され易くなってきたことに連がりますので私共は関係者として発言の場が広がっていると思えますし、また一層の発言が求められていることも解されます。

一方、マリノフォーラム21など、巾広い研究者・実務者の集りと検討の場も用意されてまいりましたので、私共も身近な問題を持ち寄り、積極的な参加のなかで仕事を進めてゆくべきと考えております。

今年も皆様の御指導・御鞭撻をお願い申し上げます。

(おかだ みのる 新潟県栽培漁業センター所長)

原 武 史

荻 野 昭

新年明けましてお目出とうございます。本年も日本海
区水産研究所をはじめ、日本海沿岸の各水産試験場の皆
様方に、御指導頂きたくよろしくお願い申し上げます。

水産の試験研究におけるバイオテクノロジー関連研究
の進出はめざましく、水産庁をはじめ各県においても、
予算化されていない県はないといっても過言ではなから
う。研究の対象は水産生物に変わりはないが、研究の手法
はその時代のニーズを反映して、資源研究が水産のすべ
てであるかのごとき時代が経過し、栽培漁業、増養殖へ
と変化してきたのである。

しかし、バイオテクノロジー研究は、水産においてそ
の緒に着いたばかりではあるが、時代のブームに乗せら
れて、予算獲得のための手段であってはならないと考
えている。また、この種の研究は短期間に成果があり、
事業化が進むとは思われないが、研究者の一人として、
研究の目標だけは見失うことがないように注意したいも
のである。

昨年の暮れには、水産庁予算の内示を直接経験する機
会を得たが、我々に関係の深い「漁況、海況予報事業」
が、第一次内示でゼロ査定という予想外の厳しい結果で
あった。水産庁の御指導による場長会の陳情もあって、
幸いにも第二次内示では予算化されたが、国の財政事情
の影響だけであろうか。我々のサイドでは重要であり、
永年にわたって予算化されていたという、安心感はな
かったであろうか。試験研究ばかりでなく、行政も変化
していることを教えられた一幕であり、予算要求にお
ける今後の反省材料であった。

広い海を見ながら研究していると、兎角中央の行政に
は疎遠になりがちであるが、研究を管理する立場の一人
として、事業の一部を国の補助に依存している以上、国
の動きを注目し、それに敏感に対応していくことが必要
であろう。

年頭にあたり、最近の研究課題と行政対応について所
感を述べて自戒としたい。

(はら たけし 富山県水産試験場長)

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお
願い致します。

年末から年始にかけて日米、日ソ間の漁業交渉が展開
され、米ソとも日本の遠洋漁業の存亡にかかわるよう
なかってない厳しい要求をつきつけている。日本漁船を受
入れている他の国への波及を考えるとき遠洋漁業の前途
が誠に憂慮されます。

国内問題にしても燃油、魚価、輸入魚等、漁業者には
深刻な問題ばかりが相変わらず続いております。このよ
うな厳しい漁業情勢のなかで栽培漁業への期待も益々大
きくそして急がれております。

本県での栽培漁業は県営センターが発足して9年目を
迎え、その間栽培漁業の拡大推進をはかるため公社セ
ンターの建設が始まり63年度から本格稼働の運びとな
っております。

さて我々センターの使命である種苗の安定的大量生産
技術であります。それはかなりのレベルまで進んだと
は云えますが未解決の問題もかなり残したままであり、
放流に当っても放流後の資源管理等の大きな課題はこ
れからの問題です。

栽培漁業が漁業者の期待に応え定着するにはまだまだ
積重ねの研究が必要であります。

サケ放流事業の今日の成果を得るには100年の努力
を要したそうですが、海における栽培漁業もあのような
姿を一日も早く実現したいものと今年も皆様とともに頑
張りたいと思っております。

(おぎの あきら 富山県栽培漁業センター所長)

内 木 幸 次

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお
願い申し上げます。

昨年は、昭和60年代の幕明けとして期待のもたれた年
でしたが、結局厳しい状況に終始したように思われま
す。それでは今年こそはと多大の期待をもって年頭を迎
えましたが、マスコミで報じられていますように、日
米、日ソ漁業交渉とも一段と厳しさを増し、200海里

時代の時の流れは大きな音をたてて日本漁業界におしよせ、日本沿岸海域における漁業振興の必然性が痛切に感ぜられます。

近年、1千万トン以上の漁獲量を確保しているとはいえ、その大半がイワシ等低価格魚で占められており、さらに、約130万トン、1兆円にのぼる水産物輸入がある現状をみますと、漁獲量の確保もさることながら、質の問題、特に国民のニーズに応じた水産物の安定供給が肝要なことと思われまふ。このことは、云いつくされたことで、今さらの感もありますが、水産業をとりまく情勢が厳しさを増すほどに、原点にかえて水産業のあるべき姿を考える必要があろうと思われまふ。

とは云うものの、現実には自然の海の摂理を人為的に制御することは不可能であり、人為的に可能なことは、現在ある資源をいかに有効に利用するか、いかにして付加価値をつけてニーズに応じた商品を作るか、さらに、いかにして新たな資源を増やしていくかにあると思われ、現在実施されている資源管理型漁業、栽培漁業、沿整事業、沿構事業、あるいはバイテク、ハイテク、マリノフォーラム21等々の施策が、今後増々重要になると思われまふ。

当场では、ヒメマスの海中飼育試験、カワハギなど多獲魚の加工品開発試験、タチウオの資源管理技術開発研究に鋭意とりくんでおりますが、今年はさらに、底曳対象種のホッコクアカエビの資源管理研究に着手し、ズワイガニの二の舞にならないよう漁業者と一体となって研究を進めたいと思ひます。

財政事情の厳しい中ではありますが、このような状況の中においてこそ試験研究機関が力を発揮するよう努力したいと考えておりますので皆様の御協力をお願いいたします。

(ないき こうじ 石川県水産試験場長)

大山岩雄

明けましておめでとうございます。

昨年は年はじめからのドカ雪で2年連続寒冬の幕明けとなり、異常気象の前触れを思わせるものがありました。

果せるかな5月の高温多雨、豪雨型の梅雨と続き、一転して8月の記録的な猛暑、秋の長雨と続き、締まりは38年ぶりの師走豪雪となり異常気象づくめの年となりました。

巷では今世紀最後、76年ぶりに大接近するハレーすい星の報道がフィーバーしています。このような大接近の年には天変地異がおこるとの云い伝えがあります。これは全く根拠のないことだと分っていながら、日航機の墜落事故、コロンビアの火山噴火、メキシコの大地震等内外共に大きな惨事が続発していることを思うと、何かハレーすい星との因縁を感じざるを得ない気持です。特にわが盟友の町中前場長の事故死は痛恨の極みであり、一生忘れ得ぬ年となりました。

一方漁海況の方も異常気象に連動してか、芳しくない結果となりました。特に基幹漁業である底曳、定置網漁業が不振を極め、七尾西湾のカキ養殖に至っては記録的な高水温により全滅の状態となり、本県水産業の前途は非常に厳しいものとなっています。

このような暗い話題の中で、能登内浦海域におけるマダイの放流効果が発現してきました。昨年の盛漁期には2才魚を主体として多くの再捕報告があり、市場調査においても常に標識魚が確認されています。放流を始めて10年、地道な調査が報われつつあると実感を持った年でもありました。

さて今年は丙寅、波乱の年だとする説もありますが、寅年に共通するものは古いものから新しいものへの交代。云いかえれば新しい流れの年ともいえるので、きっと良い年になるだろうと思うし、そう願いたいものです。

仕事の方はバイテクを含めて幾つかの新しい開発調査が予定されています。3年連続の予算削減の中であればある程創意工夫による予算の執行が要求されているわけで、例年にも増して厳しい年になりそうです。なにはともあれ確かな手応えのあるマダイを軸とする栽培漁業について、地道な努力が当該漁業の定着促進につながる道であると心に銘記して、今年も頑張っていきたいと思ひます。

(おおやま いわお 石川県増殖試験場長)

村 裕

昨年末に厚生省が中高年代の新名称を公募したところ30万通の応募があったというから、バンド・コアラを遙かにしのぐ中高年の人気ではある。その中から選ばれたのが“実年”ということだが、しかし第一感はあまり芳ばしくなかった。語感からは実直でくそまじめ、そしてさほど風采のあがらないくたびれた中高年層が浮かび、むしろ佳作の“悠年”や“榮年”の方に好感がもてた。漢和辞典によれば“実”は実る、富むの意がある。実年とは実りある世代、豊かな世代というオダテか。

しかし、大正から昭和初期にかけてこの世に生をうけたこの世代は、考えてみればまこと悲運の世代といえるのではないか。先の大戦では聖戦の名の下にあたかも消耗品の如く、いやまさに消耗品そのものとしてさんざんこき使われたあげくぼろきれのように使い捨てられ、多くの人々が傷つき命を絶っていった。そして戦後、生残った者も、無謀な戦をいどんだ為政者をうらむゆとりもなく、戦禍に疲れ果てた体にむち打って敗戦の苦悩と貧困の中をたぐひたすらに働き続けてきた。その間、敗戦国民ゆえのみじめさ、屈辱感に何度もやし涙を流したとか。その屈辱の情景は今もまざまざと脳裏に浮かぶ。日本人が民族として初めてうけたこの屈辱感、この世代だけが味わったまことに苛酷な、そして貴重な体験であった。

あれから40年、その屈辱感が祖国の再建を担う人々にとって大きな心の支えとなり、戦火にまみれた焼土を今や世界に冠たる経済大国にまで育てあげる原動力となった。そして、その中心的活力はまぎれもなく実年世代であろう（とは手前みそか）。大任を果して肩の荷をおろした今、名誉ある“実年”にまつりあげられ、気がついた時は肩をたくかされて“あとはよろしいからどうぞお引取りを”という段取りとうけたまわる。

昭和と共に生まれ、昭和と共に生きてきた世代、その昭和も昨年で還暦の一年を終え、いよいよ初老としての新しい時代にふみ出した。“昭和の人”をもって任じる実年世代も“昭和”と行を共にせざるを得ないであろう。淋しさは残るがこれまでの全力投球をもってよしと

し、今後は、オダテにのるわけではないが、語義通り“実りある豊かな世代”をめざして努力せざるまい。

厚生省御用達の新語をひねくっているうちに、新年早々つい本音を引き出されるはめになったようである。

一切を 過去に投じて 今年あり 風 生

本年もどうぞよろしくお祈りします。

(むら ひろし 福井県水産試験場長)

小 林 吉 三

明けましておめでとうございます。新春を迎え皆様のお多幸をお祈り申し上げますとともに、本年もよろしくお祈りします。

年頭に当り誰もが思うことは、今年こそはということでもあります。

昨年の種苗生産時期には長雨が続き業務の一部に支障を来すのではないかと心配されましたが、その後、所員の努力と天候にめぐまれ、順調な経過をたどり、当センターの当初生産目標数量を達成することができましたが、種苗生産技術の向上により大量の種苗が安定的に生産できると申ししても、今年も目標生産が達成できると云う何の保証もない。限られた人員、予算で最大限の工夫をして、目標達成に努力する事ではないかと思っております。また種苗の中間育成、放流等についても難しい事と思いますが、漁業者の皆様方に呼びかけ御理解と御協力を得ながら参加をいただき栽培漁業の定着に一步一步前進するように、せい一ぱい頑張りたいと思っております。

なお、今年は第6回全国豊かな海づくり大会が当地で開催されますので、皆様方の御指導と、御支援を心から御願いたします。

(こばやし きちぞう 福井県栽培漁業センター所長)

塩 川 司

明けましておめでとうございます。

新年は昨秋の米ソ両巨頭の握手による緊張緩和、日米欧の貿易・経済のテコ入れ等を受けて、政治経済的に世界は一つという方向に進む幕明けの明るい年と期待したい。

しかし、日本の漁業は国際的には200海里外水域に対する各国の厚い壁にはばまれ、国内漁業の再編成を迫られる雲行きであり、一方、国内的にも財政悪化と呼応する形で、新年度の予算要求の内容をみても具体的振興策に乏しく、いささか抽象的にお茶を濁しているように思われてならない。裏返せば、日本の漁業を現行制度のまま抜本的に振興させる施策はすでに出つくし、今後は栽培漁業の実をあげる以外に道はなさそうである。

ここで、栽培漁業化への20年の歩みを振り返ってみると、サケやアユ等淡水関係の100年の歴史と比較すれば、隔世の感がする程の進歩を遂げてはいるものの、漁業として実践する方向でその事業効果をみつめ直せば、北方のサケやホタテガイを除けば、クルマエビ等で局地的な成功例はあるが、その他の魚種については試行錯誤の段階で、栽培漁業化への見通しはまだまだと云っても過言ではないと思われる。

栽培漁業の成立条件は、対象魚介類の種苗づくりから放流まで、すべて関係漁業者の負担で賄って実施してもよいと漁業者自身がその内容に納得するかどうかである。すなわち“これなら損はしない”と漁業者が実感として受け止めてはじめて栽培漁業は軌道に乗ると考える。

このような観点に立って、各府県の試験研究および行政の栽培漁業担当者が反省する必要があるのはもちろん、国の指導もさらに強化し一年でも早く目標を達成するよう努力されることを希望してやみません。

新しい年を迎えるに当り、私の抱負を申し上げ栽培漁業の新展開を熱望すると同時に、水産の試験研究に関係する皆さんの限りないご発展を心から祈念します。

(しおかわ つかさ 京都府立海洋センター所長)

関 陽

明けましておめでとうございます。

昭和61年の新春を迎えるにあたり、皆様様の御清栄を謹んで祈念申し上げます。

今年の冬は、比較的穏かとの長期予報がありましたが昨年12月の初旬より香住附近でも珍しい大雪に見舞われ、当地で三度目の冬ながら、日本海側の気象の酷しさを一段と認識いたしました。

但馬海区の漁業については、本県の紀伊水道海域を含めた内海と比較して、底びき・沖合いかつりを始め殆どどの業種にわたり慢性的不況が続いております。この影響は加工業の原料魚不足を更に深刻化する等、夫々の経営者の苦心は大変なものであり、水産関係者はあげて「但馬の水産」の将来像を模索中です。しかし、外国との問題等先行見通しの立てにくいことも多い中において有効な対策を確立することは容易ではありません。試験研究関係に限っても、部内・外より、従来の枠にとらわれない、新時代の要求に対応し得る研究態勢を樹立することが求められています。

これらの環境の中で、今、県の予算接衝が大詰めにきており、昨年から今年にかけて財政難の折ながら、代替期にきた試験調査船建造と無線局の拡充がはかられ、いづれも何億かの規模のため簡単には参らないのですが、その達成を期している段階です。

本年も又、皆様方の御指導・御支援のほどをよろしくお願い致します。

(せき あきら 兵庫県但馬水産事務所試験研究室長)

大 谷 丈 夫

本年は虎年、水試で2年目の正月を迎えることになりましたが、さしたる前進もないばかりか後退さえしている現状では、ただただ無力感のみがやたら残る昨今であります。

財政ひっ迫による事業のじり貧、外国漁船の無秩序操業、そして漁船漁業の極度の経営悪化等々と、内外の情勢は何一つ、良いものが見当たらない。

話は変わりますが、阪神タイガースは21年振りに「チャレンジャー野球」で優勝、ピンチの後にチャンス有り。こうした悪い状況の中なればこそ、明日への灯を探し求めねばならない。

国民への動物蛋白食糧の供給産業として、又魚食の持つ健康的側面など、原点に戻って水産業のもつ意味を、もう一度考え直してみる秋でもある。

ただ単に従前の延長線の上では、水産業の明日は無いような気がしてならない。

情熱を傾け、その輪を拡げ、明日の日本海漁業を語る

「サロン」作りを、多少のゆとりさえもって進めてみたものである。

200K時代での日本列島周辺海域の再開発は勿論必要ではあるが、その為には例えば、国産食糧供給産業としての「水産基本法」の制定と、沿岸漁業開発の手続きとして「漁業法」の改正などはさけて通れない。

又、ソ連・韓国・北朝鮮などの新興漁業勢力に対処するには、引くのみでなく例えば大和堆などに日本漁船の前進基地を設けるなどの日本海全体を見渡した戦略も時には必要である。攻めは最大の防御である。何づれにせよ、生産から消費全般に亘りすべての面での水産産業振興の再構築が必要な時期に来ていると思われる。

もう一つ、これからの漁船漁業を難しくとも資源管理型に指向して行く中で「日本海資源総合管理センター」の設置など、「先づは試験研究ありき」の問題である。

従来、とかく試験研究をオロソカにして来た反省に立ち科学的・合理的な漁業を展開していく時でもある。

私共試験研究にたづさわる者大いにその責任を感じ「全員一丸野球」で、虎年のスタートを切り、明日の灯を見出したいものであります。

(おおたに たけお 鳥取県水産試験場長)

佐竹 嘉泰

明けましておめでとうございます。

新春を迎え、皆様の御清栄をお喜び申し上げますとともに、今年が良い年であるよう祈念いたします。

過ぎ去った1年を顧みると、海外漁業の締めつけは年ごとに厳しくなり、特に日米、日ソの漁業交渉に象徴される如く、遠洋漁業の前途は悲観材料が多いと云わざるを得ません。又沖合漁業にあっては、いわしの大漁貧乏に泣き、沿岸漁業では、異常気象による漁獲の激減に苦しみ、加えて円高定着によるさまざまな悪影響等、まさに暗雲低迷、時に雷鳴の聞かれるままに推移した年であったように思われます。

新年を迎えて、漁業をとりまく環境の厳しきは緩む兆は見出せませんが、いたづらに現状を嘆いても仕方のないことで、因果応報、当然のことながら、各パートで地道に、しかも着実に成果を積み重ねて行く以外窮苦を脱

する道はないのでは……

今年の^ニトは虎、虎の尾を上手に踏みながら、虎にあやかって、何事も剛氣に日常の研究活動に精励して行きたいと思っております。

虎は一夜にして、千里の道を駆けるといふ。花もあらしも踏み越えて今年こそ悔のない年としたいものです。

虎の威を借りる訳ではないが、健康で雄々しく、騎虎の勢で、21世紀に向って前進を続けようではありませんか。

(さたけ よしやす 鳥取県栽培漁業試験場長)

山崎 繁

謹賀新年

去年は悪い年でした。今年はどうぞ良い年になりますようにとお祈りしても、漁業だけはとても好転する徴候はない。

昨年、県水試のある浜田市の沖合底曳28統のうち5統が倒産閉鎖のうきめをみた。明らかに漁船の大型化、高馬力、高装備化による資源問題と金利負担に耐えかねたとみられ、漁業の高度成長の一つの結末に思える。昔ならここで減船整理に積極的に取組むところだが、誰も金を出さないで、座して淘汰を待つだけというひどい状態。

中小の水産都市でこのような状況が起ると、それは単に漁業だけの問題にとどまらない。造船、鉄工、漁船漁具、食品加工、はては一般の商店にまで波及して経営不振となり、一つの市の社会問題化してしまう。

時機を得たと言うべきか、このような時「マリノベーション計画」が発表された。とても急場の間には合はないが、長期的には中小の水産都市の再生には一つの方法だと考えて、年頭からこの構想づくりに専念することにした。願わくば良い年になりますように。

(やまさき しげる 鳥根県水産試験場長)

大野 明道

あけましておめでとうございます。

昭和61年の年頭にあたり、謹んで皆様の御多幸をお祈りいたしますと共に、新年のごあいさつを申し上げます。

50才も半ばを過ぎる年になりますと、「門松や冥土

の旅の一里塚、めでたくもありめでたくもなし」の句が、ふと頭をかすめて行きます。現実的には、潜在意識にあるこのような無常感とは関係なく、相変らず色々と夢を抱き、その何分の一かでも実現できればと大いに期待をかけております。ただ夢を夢だけに終らせないためには、水産以外の分野の技術を導入する必要がある場合が多く、一朝一夕には事が運ばないのが残念ですが、「千里の行も足下に始まる」の諺どおり、ただ実行あるのみと覚悟を新たにしております。

最近、水産庁から発表されたマリノフォーラムやマリノベーションの構想にみられるように栽培漁業を中核として従来の水産技術に加え、目覚ましい発展をとげつつあるバイオテクノロジー、エレクトロニクス、リモートセンシング、ニューメディアなどの先端技術を導入した総合的な海洋開発が計画され実行されつつあることは誠に喜びにたえません。今後このような先進地での実績が原動力となって、日本海の各地にそれぞれ、特色のある魅力的な漁村が生れることを念願しつつ、今年こそ一陽来福の年となるよう頑張りたいと存じますので、何分ともよろしく御指導下さるようお願いいたします。

(おおの あきみち 島根県栽培漁業センター所長)

大塚 雄二

明けまして、おめでとうございます。

この冬は、気象庁の暖冬予想に反して、ここ日本海の最西端でも、めづらしく連日雪模様のきびしい寒さの年明けになりました。

いくら、人工衛星を打上げて先端技術を駆使しても、自然現象の推移を適確に予測することが、いかに至難の技であるかを再認識し、また、私達にも、漁海況予報と言う仕事があって、「あまり役にたたない」、「当たらない」との批判も時々、耳にしますので、いささか身につきまされる思いのお正月でした。

この、漁海況や資源生態調査のように、コツコツとデータを積み重ねた後で、ほんのすこしづつ知見が得られ、一見終りのないような仕事は、今頃流行の栽培漁業や、バイオテクノロジーなどに比べて、影のうすい分野と見なされ勝ちで、行政屋さんの耳にも通りにくく、予

算も年々先細りしています。

私も、栽培漁業やバイオテックの重要性は充分承知しているつもりです。がしかし、すくなくとも日本海漁業の根幹が漁船漁業、つまり“獲る漁業”であることは、今も昔も将来も変わらない、したがって、漁海況と資源生態の調査研究は、水産試験場にとって、今も昔も、そして今後も、もっとも重要な仕事の一つだと思っています。

いささか逆説的に過ぎますが、漁海況予報が「今はあまり役に立たない、または当たらない」からこそ、もっともっと力を入れるべき分野だと思います。

昨年夏、山東省の水産研究所を訪問した時に、中国は漁海況調査に非常に力を入れていると、何人もの研究者がその成果を熱心に語るのを聞いて、中国が日本を凌駕する日も近いような気がしたことを思い出します。

気象庁の長期予報が、はずれたばかりに、奇妙な年頭所感になってしまいました。 妄言多謝。

(おおつか ゆうじ 山口県外海水産試験場長)

大内 俊彦

明けましておめでとうございます。

年頭に当り皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りし、平素のごぶさたを深くおわび申し上げます。

最近におけるハイテックの進歩は正に秒進分歩の感がありますが、これら一連の科学技術の開発が真に人間の幸せにつながるかどうか不安が高まっているようです。現在、「物」の時代から「心」の時代に移ったといわれますが、医学においても「肉」から「心」の解明へと進んでいるようです。元来、心（魂）とか遺伝の問題は“神”の領域に属すると思われていただけに、不安が大きいのも当然と言えるでしょう。これは「機械文明の発達が失業者を増加した」というような単純なことではないでしょう。しかし人間の叡智は、必ずこの不安を乗り越えて、華麗なる文明の華を開かせることと思います。その時は「地球は一家、人類皆兄弟」という言葉を素直に口にすることのできる時代ではないでしょうか。

「核兵器による人類の滅亡」などという愚かなことが無い限り……。

(おおうち としひこ 山口県外海栽培漁業センター所長)

ヒラメ稚魚の摂餌について（アミ類の捕食）

池内 仁

着底後もないヒラメ稚魚は、主に端脚類等の微小な動物プランクトンを餌としている。その後成長するにつれてアミ類、シラスおよび稚魚とその食性を変えていくが、アミ類はヒラメ稚魚が魚食性へと転換するまでのツナギとして極めて重要な餌生物である。

青森水試では、天然のヒラメ稚魚の分布状況および餌生物等の調査の為、本県日本海沿岸（七里長浜）にて桁網（幅2m、目合2mm）曳きを行なっている。これによってヒラメ稚魚は勿論のこと餌生物も同時にサンプリングできる。そこで、ヒラメ稚魚の胃内容中のアミ類と環境中のそれとの比較を行なってみた。

まずアミ類のサイズによるヒラメ稚魚の選択性について調査した。結果は図1に示す。

ヒラメ稚魚が全長3.5cm以上に成長すると、あらゆるサイズのアミ類を摂餌しているが、それ以下でのヒラメで

は大きなサイズ（10mm以上）のアミ類を摂餌していない。全長3.5cm以下のヒラメ稚魚にとって、10mm以上のアミ類を捕食するのは困難なのであろうか。だとすれば、3.5cm以下のヒラメにとって摂餌できうるアミ類の量は、環境中のアミ類総量に比較して極めて小さいものとなるであろう。

次に、アミ類の種に対する選択性について検討してみた(表1)。

ヒラメ稚魚の胃内容中で確認されたアミの種は、環境中の優占種であり、分布密度が高いアミを摂餌している。このことから、特定のアミの種に対するヒラメ稚魚の選択性は認められなかった。

ヒラメの種苗放流に携わる者にとって、ヒラメ稚魚の成長を支えているアミ類に対して感謝の念にたえない。

(いけうち ひとし 青森県水産試験場技師)

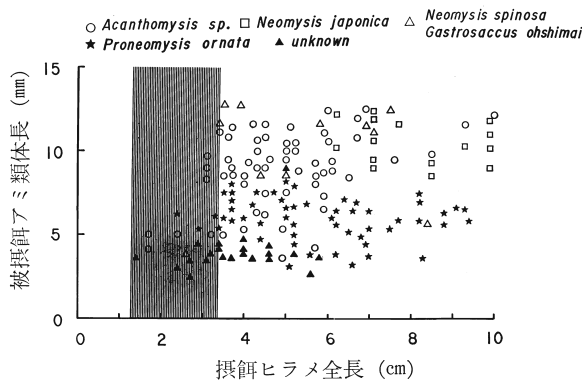


図1 被摂餌アミ類体長と摂餌ヒラメ全長との関係

表1 ヒラメ0才魚胃内容中アミ類と環境アミ類との比較

月日	St	水深	<i>P. ornata</i>	<i>P. perminuta</i>	<i>A. type 1</i>	<i>N. spinosa</i>	<i>G. oshimai</i>	<i>N. japonica</i>
8/8	2	5 m	4 (5.3)	0 (0.3)	2 (49.4)	2 (18.5)	0 (0.4)	0 (0)
	3	5	3 (1.1)	0 (0.1)	3 (62.7)	0 (20.0)	0 (0.1)	0 (0)
	4	5	3 (2.1)	0 (1.3)	19 (202.4)	0 (6.4)	0 (0)	0 (0)
	5	5	1 (0.5)	0 (0)	15 (74.5)	0 (0.5)	1 (0.2)	0 (0)
	2	10	5 (4.0)	1 (0)	10 (20.2)	2 (23.7)	0 (0.1)	0 (0)
9/14	3	10	15 (6.3)	0 (0)	35 (113.8)	4 (69.5)	0 (0.4)	0 (0)
	5	5	3 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
11/5	6	5	0 (0.7)	0 (0.1)	0 (0.4)	0 (0)	0 (0.4)	8 (1.5)
	3	5	0 (0.2)	0 (0)	1 (3.0)	0 (0.1)	0 (1.6)	0 (0)

数字は、ヒラメ0才魚胃内容中で確認されたアミ種類別尾数。()内は、環境中のアミ種類別採集密度 <mg/nf>

《研究業務短信》

- 10・1 河川湖沼会議 富山市. 永澤技官(～3).
- 10・3 日本海洋学会秋季大会 仙台市. 長田技官(～5).
- 10・4 第2回秋さけ資源管理検討会 東京都. 服部企連室長(～5).
- 10・11 するめいか稚仔調査(みずなぎ乗船) 山陰沿岸域. 長田技官(～26), 木谷室長(10/21～26).
- 10・14 所長懇談会及び所長会議 清水市, 東京都. 藤井所長(～17).
- 10・14 プログラミング研修 茨城県筑波町. 梨田技官(～19).
- 10・14 生産力調査結果検討 京都市. 檜山技官(～16).
- 10・21 指定研究報告会 松江市. 服部企連室長(～24).
- 10・21 魚探テープ解析 東京都. 田中實室長(～24).
- 10・22 するめいか稚仔調査(みずほ丸乗船) 九州西岸～東シナ海北部海域. 笠原, 永澤技官(～11/20).
- 10・28 技会全所長会議 水研所長会議 東京都. 藤井所長(～31).
- 10・28 人工礁検討会 佐賀県嬉野町. 田中實室長(～31).
- 10・28 海牧研究打合せ会 札幌市. 長谷川技官(～30).
- 10・29 生産力調査・砂泥域調査試料収集 新潟県～京都府. 池原技官(～11/2).
- 10・29 INPFC シンポジウム 東京都. 南, 梨田技官(～31).
- 10・31 文献解題編集委員会 東京都. 代田部長(～11/2).
- 11・4 西部日本海ブロック場所長会 豊岡市. 藤井所長(～7).
- 11・5 庶務部課長会議 三重県. 和田課長(～8).
- 11・5 魚探テープ解析 東京都. 長谷川技官(～8).
- 11・6 赤潮防止対策事業及び重要貝類毒化対策事業中間検討会 秋田県. 服部企連室長(～8).
- 11・6 指定試験指導(べにずわい) 境港市. 北野部長(～9).
- 11・6 浅海砂泥域視察と漁業実態打合せ 秋田市, 鶴岡市. 代田部長(～10).
- 11・8 評価報告書等検討専門委員会 東京都. 藤井所長(～9).
- 11・12 ヒラメ放流技術開発事業連絡協議会 鶴岡市. 輿石, 赤嶺, 野口技官(～14).
- 11・13 北部日本海水産統計検討会 金沢市. 渡辺室長(～15).
- 11・18 第70回GSK委員会および第20回GSKシンポジウム 長崎市. 梨田技官(～22).
- 11・20 秋田県漁業資源対策協議会 秋田市. 北野部長(～21).
- 11・25 管理型漁業中央検討会 東京都. 田中實室長, 南, 長谷川技官(～28).
- 11・25 漁業動向検討会 京都府. 北野部長(～27).
- 11・25 情報検索講習会 茨城県筑波町. 赤嶺技官(～30).
- 11・26 放射能担当会議及び研究業務打合せ 東京都. 清水市. 檜山技官(～29).
- 11・28 資源海洋部長会議 東京都. 北野部長(～30).
- 12・3 魚探記録解析 東京都. 田中實室長(～6).
- 12・3 GSK北部底魚部会 釧路市. 伊藤技官(～6).
- 12・3 増養殖関係部長会議 東京都. 代田部長(～5).
- 12・9 深層水有効利用研究会 東京都. 北野部長(～10).
- 12・9 海域総合検討会 男鹿市. 田中實室長, 田中邦室長(～11).
- 12・9 公害研修 茨城県筑波町. 中西技官(～14).
- 12・12 低次生物生産調査(みずほ丸乗船) 佐渡周辺海域. 木谷室長, 広田, 長田技官(～16).
- 12・16 マグロ漁況調査 両津市. 長沼光技官(～17).
- 12・17 ヒラメ増養殖・漁業研修指導 青森県. 輿石技官(～20).

《所内談話会》

《編集後記》

昭和60年9月24日

五十嵐浜浅海域におけるヒラメ0才魚の分布生態

興石 裕一

1984年春季の富山湾におけるクロロフィル濃度の異常性について

長田 宏・木谷 浩三

昭和60年10月4日

ホンダワラについて

吉田 忠生(北大理)

昭和60年11月1日

大和堆ズワイガニの移植放流について 新潟県北部沿岸域における板曳網漁業の現状と資源管理

伊藤 勝千代 梨田 一也

昭和60年11月15日

新潟市以北沿岸域における底泥中の炭素量および窒素量について

日本海前線域における亜表層クロロフィル極大について

檜山 義明・池原 宏二・長沢 トシ子・永原 正信

長田 宏・木谷 浩三

海洋における種と群集の対応関係

北野 裕

パーソナル・コンピュータを利用した貝の心拍の計測

中西 孝

昭和60年11月18日

初夏の佐渡海峡の流れ藻に付随する魚類の出現期の水温と経年変化

池原 宏二・永原 正信

佐渡島周辺海域におけるホッケの産卵

田中 實・梨田 一也・南 卓志

新潟市五十嵐浜浅海域におけるアラメガレイの水深別分布

野口 昌之・興石 裕一

新潟市五十嵐浜浅海域におけるアラメガレイの食性

興石 裕一・野口 昌之・広田 祐一・長沼 典子

富山湾における魚卵の鉛直分布

内山 勇・林 清志(富山水試)・南 卓志・笠原 昭吾

昭和61年1月17日

深層水の利用について

北野 裕

資源解析学におけるマルカール法の応用

赤嶺 達郎

昭和60年は、御高承のように水産業をめぐる諸情勢は一段と厳しいものでありました。昭和61年に入っても諸外国との間で行われている漁業交渉などの進展如何では日本海も波の高い日々が続くものと考えられます。

今年は、昭和56年度から進められてきた科学技術庁の振興調整費による海洋生物資源の生産能力と海洋環境に関する研究も終了することになりましたが、関係者の御努力によって一応の生産力モデルが完成しようとしております。そのあとは、これらの成果を基に日本海における水産業に役立つため、各海域の実態にあった調査研究の手がかりになるよう発展させたいものと期待しておりますので益々の御指導をお願いします。(企連室長)

《正誤表》

連絡ニュース No. 334

ページ・行	誤	正
1・左10	1部	一部
右14	息欲	意欲
2・左2	北になる	北にある
3・左23	魚貝類	魚貝類
左28	魚貝類	魚貝類
4・左3	効率な	効率のな
左10	名機関	各機関
〃	標式放流	標識放流
左13	移転	移動
9 14	魚郡	魚群
23	再浦	再捕
30	海岸	海洋
10 46	再浦	再捕
11 4	再浦	再捕
9	再浦	再捕
16	再浦	再捕
11・18	再浦	再捕
27	南下郡	南下群
29	再浦	再捕
33	クロイン	クロソイ
12 右12	田中実	田中實
22	田中実	田中實